

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 放課後等デイサービスHIYOKOMUSIC荒井教室		
○保護者評価実施期間	2026年 5月 7日		2026年 5月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2026年 5月 7日		2026年 5月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 6月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安定した職員配置、職員間の連携をとることで安心感のある雰囲気での支援ができること。	支援中のお子様の姿の共有や対応について翌日に共有を行い、同じ情報を把握したうえで関わりができるようにしている。配置されている職員が全員2年以上、当事業所で勤務している。日々の人的環境に大きな変化がなく安定した関わりができるよう職場環境の充実も意識している。	今後も情報共有しやすい環境を整える。送迎時の丁寧な対応を心がけ保護者様から情報提供がしやすい関係づくりを行っていく。保護者様から送迎時に何ったお子様についてのエピソードや、要望を漏れなく職員で共有する。
2	季節や流行に合わせてプログラムを設定し、内容が固定化しないようにしている。	流行りの曲を取り入れたり、新しい教材を作成することを意識している。定期的にプログラム順についても見直しを行い降参時間や進み具合に合わせて対応している。	全員で意見を出し合い、新しいものを取り入れることで飽きずに楽しむことができる内容にする。お子様の希望する曲を取り入れることを検討している。
3	毎月のおたよりを充実させ、活動内容の周知や様子を写真で行っている。	前月の振り返りや、お子様の様子を写真とともにお便りにし、毎月発行している。当月のプログラム内容を紹介し、見直しを持って来所できるようにしている。	写真の枚数を増やしたり、プログラムの紹介だけではなく療育の視点から様々な内容を掲載できるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外出活動やイベントが少ない	療育に対しての柔軟な考え方が不足していた。音楽プログラムの中での変化のみを考えていた。	イベントや外出から得られる刺激、療育の効果があるため、積極的にイベントを取り入れる。
2	環境の区別が視覚的に難しいことがある	部屋数が少なく、必要な際(クールダウンなど)に空間を仕切ることが難しい。 扉に鍵がないため簡単に開閉ができる状態になっている。	視覚的、構造的に部屋の使い方を示し、必要な際に使用ができるようにする。
3	事業所内の環境が衛生面で課題がある箇所がある。 (マット、壁)	汚れたマットは洗浄しているが落ちきれない汚れがあり、視覚的に変化が少ない。 壁の穴に対して目隠しで対応している状態であり、違和感や不安感を覚えるお子様がいると感じる。	マットの洗浄に関して見た目に変化が見られなかった場合は、予備のマットの使用を検討する。 壁の修繕を検討している。